



NPO 法人メセナ SUN-CLUB 学びの森

第5号
2015.11

ソールだより



大暑にフレッシュハーブの花束を



NPO 法人メセナ SUN-CLUB 学びの森のマスコット「ソールちゃん」です。
ラテン語で太陽を「ソル」といいます。当法人は体験活動を通して自ら輝ける人材の育成を目的に
していること、法人名に SUN(太陽)を使用していることから、「ソールちゃん」と命名しました。

平成二十七年度は、継続事業として子どもの自然体験学習会、自然体験キャンプ、里山交流会、里山カルチャー教室、自然体験活動指導者講習会を実施するとともに、新規事業として食物アレルギーの子どものデイキャンプを実施しています。四月からこれまで大きな事故もなく大方の事業が終了しました。

食物アレルギーの 子どものデイキャンプ

昨年の自然体験キャンプで食物アレルギーへの対応の難しさを痛感すると同時に、食事の関係でキャンプに参加できない子どもがいるのではないかと思うようになりました。幸いアレルギー専門医であることもクリニック八本松病院の杉原雄三先生、広島大学教育学部人間生活系コースの協力が得られることになりましたので、食物アレルギーの子どものデイキャンプを実施することになりました。

デイキャンプの計画は順調に



進み、東広島市からも補助金を頂けることになったものの、参加者を集めるのに大変苦労しました。また、杉原先生のお話を

伺ったり、アレルギー反応が出た際の保険対応について保険会社に問い合わせたり、参加者へのアレルギー調査をする中で、思っていた以上にリスクの高い活動であることが分かってきました。リスクを最小限に留めるため、六月には保護者説明会を実施し、デイキャンプ専用の調理用具と食器を揃え本番に臨みました。

デイキャンプには小学一〜六年生九名が参加しました。参加児童の多くが、これまで修学旅行やキャンプをあまりできていたそうです。そのためデイキャンプができるのが嬉しくてたまらないようで、目を輝かせて竹のはしづくり、野菜の収穫、自然観察、野外料理に取り組んでいました。なかなか参加者が集まらず、一時は中止も検討しましたが、子どもたちの生き生きとした表情に接し、実施できて良かったと思えました。

喜びと感謝と敬いの心

子どもの体験活動はもろろんのこと、一般を対象とした活動でも野外料理を作った時は、食事の前に「喜びと感謝と敬いの心を持っていただきませう」と唱和しています。

子どもの体験活動では、これまで西村副理事長や自然体験活動指導スタッフが、「喜びと感謝と敬いの心」とはどういうことを話していました。いつまでも同じ人が話をしているのでは進歩がないので、まず自然体験学習会を手伝ってくれている学生にバトンタッチ。学生がとても良い話をしてくれるので、子どもたちの考えも聞いてみたいとなりました。そこで七月の自然体験学習会のキャンプで班長(六年生)に自分の考えを話してもらったところ、「じーん」とくるような事を言ってくれました。西村副理事長の話「聞いて



るんだらうか」、「わかつとるんだらうか」と思うこともしばしばですが、ちゃんと理解していて感激しました。今年自然体験キャンプでは、スタッフと学生が頼り切っている西村副理事長不在という想定外の事態が起こりました。これが二〜三年前であれば機能不全に陥っていたことでしょう。定期的に自然体験学習会や自然体験キャンプを手伝ってくれている若手スタッフや学生が、彼らなりに状況判断し何をすべきか考え、責任を持って活動を進めてくれました。彼らに助けられ自然体験キャンプを無事終了することができ、喜びと感謝の気持ちでいっぱいになりました。



「いいわけ」「不機嫌」「易きに流れる」行動は子どもたちの成長を妨げる
NPO法人メセナSUN・CLUB学びの森副理事長 西村清巳

これらは、子どもだけではなく大人の成長をもさまざまな。よほど修養を積んだ人はいざ知らず、「いいわけ」「不機嫌」「易きに流れる」行動は多くの人間の性として身につけている。これらの負の遺産を背負った人間がこれを克服するきっかけ、方法はなかなか見つからない。



しかし、一般社会の中に育つ過程で「いいわけ」「不機嫌」「易きに流れる」行動を改めるのは不可能ではない。それは、尊敬する人からの指導、人生に影響を与えるような質の高い読書、強烈な影響を与えるような人物の生き様などに触れることだろうか。

いいわけをしない、不機嫌な顔を見せない、易きに流れるようなことはないという生活態度を身につけるには、日常生活の中で継続的に導く指導が必要であろう。

「いいわけ」「不機嫌」「易きに流れる」ことによって何も問題の解決にならないことを子どもがよく理解すること、それは日常の体験活動の中で指導しなければ理解が深まらない。

私たちは「子どもの自然体験活動」の指導をしながら「いいわけ」「不機嫌」「易きに流れる」行為が平和を乱し、活動成果が上がらないことを納得させる指導を根気強く続けている。子どもたちの成長するきっかけは日常体験活動の中にこそ転がっている。活動の質の高さ、難易度の高さによって子どもたちの学ぶチャンスも多くなる。

「いいわけ」「不機嫌」「易きに流れる」行動が減る過程で、忍耐力、責任感、集中力、協調性、創造力などが磨かれる。周囲の大人のタイミング良い声かけが必須条件である。



私たちの自然体験活動では、子どもたちに「立派な社会人になるために」



自然体験活動をするという目的を持たせている。何を身につけて立派な社会人になるかという具体的な目標は掴んでいないと思われるが、「いいわけ」「不機嫌」「易きに流れる」行動を払拭できたらほんどの目標を達成できることになると思う。

私たちは、十二ヶ月四季折々の作業、自然学習、環境学習を通して「立派な社会人になる」という目的を達成しようとしている。子どもたちにもその目的を自覚させるためにしばしば作業態度、平和な人間関係について話をしている。

ただ、具体的な作業の過程では、大目標はどこかにすっ飛んでいっている。それでいいと思う。熱中力、集中力、責任感が大切であるから。

農作業では、自然の力を識り、植物への慈しみの心を身につけてもらわなければならない。作業効率よりも植物への思いがこもった作業をする。収穫では、作物への感謝、自然の恵みに感謝する心を



養わなければならない。里山の手入れでは、刃物を扱う作業時の防災意識の養成、里山と人との共生について学び、薪割り、炭焼き、茸作りを体験する。

水辺の活動では、池や川の危険性を識り、自らの命を守る技術を学ぶ。水運としての水は人や物を運ぶことができる。孟宗竹の筏を作り、筏こぎの体験、ブラックバス釣りやバス料理の体験をする。



料理の体験では、包丁の使い方、様々な献立の料理体験、食べるときのマナーを身につけ、食材・調理人への感謝の心を養う機会に

している。

たくさんさんの体験活動が、たくさんさんの「いいわけ」「不機嫌」「易きに流れる」行動を表現する場になっており、たくさんさんの教育の場を提供することになっていると思われる。きっとそれらは「立派な社会人」になるための良い栄養になることでしょう。

活動に携わるようになって感じたこと

広島大学大学院総合科学研究科 堀金 司

NPO法人メセナSUN・CLUB
B学びの森の活動に携わるようになり、三年が経ちました。最初にNPO法人メセナSUN・CLUB学びの森を訪れたのは学部二年の冬だったと思います。なんとなく先輩に誘われ参加した活動では、子どもの勢いに圧倒されたことを覚えています。正直はじめて参加した際は三年間もこの活動に携わることになるとは考えていませんでした。最初の数回は先輩に誘われたら参加するというスタンスで、自分から積極的に子どもたちに関わっていきようなことはしていませんでした。いつからこの活動に対し楽しみを見つけたのかは覚えていません。気づいたらこの活動に参加することが楽しく、今では積極的に子どもと関わっていきようになりました。



いつからかは覚えておりませんが、



自分自身の心境の変化に繋がったきっかけを与えてくださったのは、一緒に活動をする友人、NPO法人メセナSUN・CLUB学びの森の方々、西村先生であり、子どもたちとの関わり方、自然を見る力など、様々なことを教えていただきました。また「失敗してもいいからやってみる」と背中を押していただくことで、少しずつですが、責任を持って活動に参加することができるようになったのではないかと思います。

この三年間活動に携わることで、自分自身でそんなに変わった、成長したなど感じることはありません。しかし、少しばかりの積極性、責任感、面倒見の良さを得るきっかけを与えてくださったのはこの活動です。自分自身も少しでも変わるきっかけを与えてくださったこと、感謝しています。残り一年半は大学院生なので、また時間がある時などは活動に携わらせていただければと思います。

青春まつただ中

里山では、五十歳を過ぎると振出しに戻ります。今、「なみ滝藤原園」では、二回目の青春を謳歌している若者たちが大活躍中です。



七月の二十歳（街中では古希と言うらしいです）のキャンプでは、パワー全開で大ハッスル。東広島市市民協

働センター主催の、真竹のスタードーム作りや、樹齢九十年以上のコナラの木の伐採では、街の若者を知識、知恵、技術で圧倒。里山カ
ルチャ―教室では、参加者同士が教えあいながら、草木染、ハーブ石鹸やかご作りに熱中。自然体験学習会やキャンプに参加している子どもたちも、里山の若者のように「楽しく遅く生きる力」を身に付けて欲しいものです。



事務局より

今年も会員の皆様に「ソールだより」をお届けすることができほつとしております。

「なみ滝藤原園」の管理人の岡村昭三さんが八月末にお亡くなりになりました。毎日のように顔を合わせ、何かと助けってもらっていましたが、寂しくなりました。私たちの活動を通して、「なみ滝藤原園」が少しずつ綺麗になっていくのを楽しみにされていました。気にされていた日本庭園と梁だけになっていた藁葺家も、会員の方がリノベーションしてくださることになりました。きっと喜んでおられると思います。岡村さん長い間お世話になりました。ありがとうございました。

NPO法人メセナSUN-CLUB学びの森
〒739-0262
東広島市志和町志和東2883
TEL 082-433-3113
FAX 082-420-5111
URL <http://www.mecenat-sc.jp/>
Email toi@mecenat-sc.jp